

第3章 区域計画

●「区域計画」の推進について

(1)「区域計画」の構成と取組主体

区域計画は、「地区別計画」の取組支援と他地区に取組を広げるきっかけづくり等を推進する「地区支援目標」と、重点的なテーマに沿った事業ベースの具体的な取組をまとめた「重点テーマと目標」の2つで構成されています。

この「地区支援目標」と「重点テーマと目標」の実現に向け、区役所、区社会福祉協議会及び地域ケアプラザが、地域や関係団体・事業者などと協働で取り組んでいきます。

(2) 地区支援目標

「地区支援目標」は、各地区で展開されている「地区別計画」を中心とした取組について、その充実や実現に向けて、助言等を行うとともに各種助成制度などの活用により、支援を行います。

また、「地区別計画推進策定委員会」や「地区支援チーム」における活動を通じて、各地区の取組を把握し、その手法やノウハウを蓄積して効果的に地域に情報提供することで、他地区にその取組を広げるとともに、取組の支援を行ないます。

| | |
|-----|--|
| 目標1 | 地域での「つながり」づくりの取組を支援し、ともに推進しながら、他の地域へも取組を広げていきます！<つながり> |
| 目標2 | 多くの人が地域で活躍でき、地域活動が広がっていくことを目指し、地区の支援やコーディネートを行います！<人材・担い手> |
| 目標3 | より身近な地域で活動できるよう、地域活動における「機会」「場」に関するノウハウを共有し、活用します！<機会・場> |
| 目標4 | 地域情報を共有・活用できる体制づくりをすすめます！<情報> |
| 目標5 | 地域の取組を共有するとともに、活動の広がりを意識しながら継続して取り組めるよう、支援を行います！<安全・安心・健康> |

(3) 区域計画の重点テーマと目標

「重点テーマと目標」は、「区民アンケート」、「分野別・団体別グループインタビュー」や、各地区の「地区別計画推進策定委員会」などでの意見を参考に、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」の提言に基づき、区域での取組が必要と考えられる6テーマを選定しました。

また、「目標」や「主な取組」に関しては、区役所・区社会福祉協議会・地域ケアプラザを中心に検討を進め、それぞれのテーマの必要性に関して、「背景と取組の方向性」「これまでの取組」「期待されること・求められていること」などを経て、項目を選定しました。

| | | | |
|------|--------------------|------|-----------------|
| テーマ1 | 日常的な見守り体制づくりに関する取組 | テーマ4 | 子ども・子育てに関する取組 |
| テーマ2 | 認知症に関する取組 | テーマ5 | 災害時に支援が必要な方への取組 |
| テーマ3 | 障害児・障害者に関する取組 | テーマ6 | 健康づくりに関する取組 |

(4)「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」について

第1期、第2期計画に引き続き、「みどりのわ・ささえ愛プラン推進策定委員会」が、地区別計画を含めた第3期計画での取組状況の把握や振り返りを行っています。

委員は、学識経験者、福祉保健活動団体等の代表などで構成しています。

<令和元年度の開催状況>

【第1回】令和元年6月11日 (内容) 第3期計画の推進状況と第4期計画策定のスケジュール 等

【第2回】令和元年12月4日 (内容) 第3期計画の推進と第4期計画の策定に係る取組 等

【第3回】令和2年3月30日 ※新型コロナウイルス感染症予防対策のため書面会議で実施

(内容) 第3期計画の推進報告と第4期計画策定に向けた進捗状況 等

● 6つの重点テーマの推進状況

(1) 日常的な見守り体制づくりに関する取組

■第2回「助け合い・支え合い活動 Good Job！！交歓会」開催

第1回目は、2年前、区内の助け合いや支え合いの活動に取り組んでいる団体同士の情報交換とそれぞれの活動のすばらしさを再確認・共有することを目的に開催しました。活動を始めたばかりの団体や立ち上げを検討中の地域住民、すでに長く活動している団体等の参加がありました。

その後、立ち上げ検討中だった団体がこれを参考に活動を開始し、またスタートにむけて検討を始めた団体も出てきました。区内で助け合いや支え合いの活動が広がってきたこともあり、今年度第2回目を実施することになりました。この2年間に活動が始まった2団体からの報告と、グループに分かれて助け合い・支え合い活動の周知方法や、依頼をボランティアにつなぐ際の困りごとなどについて話し合いました。

今回は緑区生活支援コーディネーター連絡会で企画しました。今後も地域ケアプラザ・区社協ともに協力して、団体同士の関係づくりや情報交換をはじめ、事例をもとにした話し合いなど、今後の活動の発展と区域での広がりにつながる機会を設けていきたいと思っています。



▲当日の様子

(2) 認知症に関する取組

■認知症サポーター養成講座の拡充

認知症サポーター養成講座の開催にあたっては、区域・包括圏域・より身近な地域でチラシの配布・広報を行いました。地域住民や学校での開催に加えて、警察署や銀行等の民間企業からの新規依頼も複数回あり、認知症サポーター養成講座は、今年度（令和元年12月末時点）28回実施、1,073名の方に受講いただき、認知症サポーターは緑区全体で16,281人になりました。

引き続き、認知症サポーター養成講座を拡充していくために、活動を行うキャラバン・メイトの支援として認知症キャラバン・メイトのつどいを行います。

■認知症普及啓発事業を区内3つのエリアで開催

令和元年度は、より地域の実情に合わせた普及啓発を行うために、継続して「認知症をポジティブにとらえよう！」をテーマに掲げ、区内を3つのエリアに分けて次のとおり事業を行いました。引き続き、誰もが認知症をポジティブにとらえ、認知症の人が役割や生きがいをもって生きられる地域・社会をつくっていくことを目標に、あらゆる機会をとらえて普及啓発事業を展開していきます。

| エリア | 日時、場所 | 内容 |
|-----------------|---|--|
| 東本郷・鴨居エリア | 第一部：8月30日 東本郷地域ケアプラザ 第二部：9月28日 鴨居地域ケアプラザ | 第一部：「楽しみながら認知症を学ぼう」認知症すごろくを使った講座 第二部：「ペコロスの母に会いに行く」映画上映 |
| 中山・山下エリア | 2月15日 中山地域ケアプラザ | 講話：「認知症をポジティブに捉えよう！～認知症になっても住み慣れた街で暮らすために～」 講師：元気会横浜病院理事長 北島明佳氏 |
| 霧が丘・十日市場・長津田エリア | 11月29日 十日市場地域ケアプラザ | 講話：「カフェを知ろうカフェを語ろう～認知症カフェ立ち上げ物語～」 講師：Dayみどり管理者 若林美紀子氏 |

(3) 障害児・障害者に関する取組

■障害者週間での取組

緑区役所では障害者の社会参加や生きがいづくりの支援と、障害理解の普及啓発を行っています。その一環として、12月3日から9日までの障害者週間に合わせ、「障害者週間イベント2019」を開催しました。障害者による作品展示や施設紹介、イベント参加者からいただいたコメントを掲示する参加型展示を行ったほか、緑区制50周年を記念し、緑公会堂で「UNO工房」によるハンドベル演奏や映画上映、また規模を拡大した自主製品販売会を実施しました（全3日間、16施設が参加、のべ約600名が来場）。引き続き障害理解の普及啓発に関する取組や共同販売の場の設定や販路拡大などの支援を行っています。

■障害者週間イベント「みんな いっしょなら もっと たのしい！ み・ど・り！」開催

障害児者支援の関係機関でつくる「みどり障がい児者支援ネットワーク」は、関係機関同士の情報交換や顔のみえる関係づくり、障害理解の普及啓発を行っています。その普及啓発の一環として、12月の障害者週間に合わせ、みどりアートパークで3日間（12/5,6,7）イベントを開催しました。

障害者通所施設のパンや焼き菓子の販売をはじめ、手話ソングやパネルシアター、バルーンを使ったムーブメント、小物づくりのワークショップ、落語、ハンディキャップヨガ体験等々、たくさんの催しが開催され多くの来場者がありました。

2日目には「何がいったい差別なの？」と題し、障害者差別解消法と合理的配慮についてDPI日本会議 崔氏の講演があり、参加者は真剣に耳を傾けていました。（イベントの様子は次の写真のとおり）



■移動情報センター事業者向け研修の開催

障害児者の移動を支援している事業所を対象に、講師として横浜市発達障害者支援センター地域支援マネジャーの神田宏氏を迎え、発達障害児者の特性とその支援について2日間（8/6,22）の研修を開催しました。

1日目は自閉症スペクトラムの特性理解を中心に問題行動が起こる背景や原因の理解を深め、当事者の困り感に寄り添った支援について学びました。

2日目は行動障害のある方への支援に、アセスメントが大切であることを理解し、実際のアセスメント方法として行動チェックシートを用いて学びました。

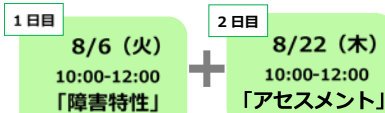
研修後のアンケートでは、「アセスメントの重要性」についての記載が多く、「アセスメント方法を学び実際の支援に活かしたい」というコメントを多くいただきました。

緑区移動情報センター主催 事業者向け研修

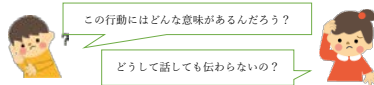
障害特性の理解とその支援

～問題行動が起こる背景・原因と理解～

発達障害児者の支援において「どうして伝わらないだろう」この行動にはどんな意味があるんだろうと理解が難しい場面はありませんか。本研修では、1日目に「障害特性（自閉症スペクトラム）」2日目に「アセスメント」について学び、より良い支援につなげます。（本研修は平成30年度に青葉区自立支援協議会が主催した「問題行動の改善とその支援」①障害特性 ②アセスメントと同じ内容となります）



【講師】横浜市発達障害者支援センター 神田 宏 氏（発達障害者地域支援マネジャー）



【場 所】 ハーモニーみどり 2階 多目的研修室Ⅱ
住所：緑区中山2-1-1（緑区社会福祉協議会 福祉保健活動拠点）
【対 象】 緑区及び近隣区の移動支援事業所
ガイドヘルパー及び職員等
【参加費】 無料
【申 込】 裏面にある申込書でFAXにてお申し込みください（7/27締切）
【申込先】 緑区移動情報センター 電話：931-3280 FAX：934-4355

(4) 子ども・子育てに関する取組

■要保護児童対策地域協議会実務者研修会

「子どもの虐待『通告』について考える」をテーマに研修会を実施しました。子どもの虐待を心配する相談件数は年々増加している一方で、通告を躊躇する事例もみられ一歩踏み込んだ支援が出来ない事例もあります。今回の研修会ではパネルディスカッションを取り入れ、小学校、保育園が通告を悩みながらも実際に通告した事例について報告があり、区や児童相談所も対応について発表しディスカッションを深めました。通告する側、通告を受ける側、双方の思いや対応について理解が深まり、関係機関等の連携を促進する動きにつながりました。引き続き、子どもに関わる地域や関係機関等がチーム一丸となり子どもを虐待から守る取り組みを行っていきます。



▲パネルディスカッションの様子

(5) 災害時に支援が必要な方への取組

■緑区福祉避難所連絡会

横浜市では、大規模災害が発生した時に地域防災拠点や自宅での避難生活が困難な方のため、市内の社会福祉施設などと協定を締結して「福祉避難所」として位置づけています。区内では、特別養護老人ホームや地域ケアプラザ、障害者施設等あわせて26の施設を指定しており、これらの施設の代表者にお集まりいただき、今年度も連絡会を開催しました。

連絡会では、警察への災害時緊急通行車両の事前届出などの確認に加えて、今年度から本格運用が開始した「福祉避難所情報共有システム」の操作方法を共有しました。本システムは災害時に各施設の状況について円滑かつ的確に情報共有が区と各施設の間で図られることを目的としたものです。各施設で本システムを活用した避難所運営が進められるよう次年度以降も各施設と引き続き連携していきます。

(6) 健康づくりに関する取組

■地域における「オーラルフレイル予防」の取組推進

口腔機能の衰え（オーラルフレイル）についての考え方を広く周知し、自ら予防に取り組んでもらえるよう、普及・啓発に取り組みました。幅広く地域における啓発を進めるため、地域活動団体である保健活動推進員の全体研修・地区研修でオーラルフレイルに関する実践的な啓発研修を行い、各地域で啓発を進めていただくよう取組を進めました。また、高齢関係施設・団体と連携し、研修やセルフチェックの重要性の普及を進めるなど、地域全体で予防活動を進めるための基盤づくりを行いました。

■人生100年時代～のばせ！健康寿命～

「人生100年時代～のばせ！健康寿命～」をテーマに講演会を11月30日に緑公会堂で開催しました（371名参加）。第一部は、「できることを楽しく！長く！人生100年時代を豊かにするヒケツ」をテーマに、ダイヤ高齢社会研究財団の澤岡詩野氏にご講演いただきました。第二部は、各地域包括支援センターエリアの活動団体紹介を行いました。つながりが「介護予防」「地域づくり」になるということで、健康で自分らしい生き方をみんなで考えるきっかけとなりました。

【出演グループ】

にこにこクラブ、かもい合唱団 ONE HUNDRED、なかやまストレッチOB会、チームやました、里山会、きりとも、長津田げんき応援隊・歌声サロン～音のたまてばこ～